

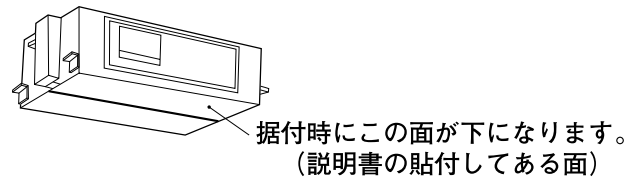
セゾンマルチシリーズ 据付説明書

FDUP 902FLXB～2802FLXB

PJD012D023 

本説明書は、室内ユニットの据付方法を記載してあります。
リモコン及び電気工事の方法は、電気配線工事説明書（室内ユニット付属）をご覧ください。
総合工事仕様と室外ユニットの据付方法は、室外ユニット付属の説明書をご覧ください。
リモコンは別売です。

本機は制御箱に内蔵のファンコントローラのボリュームにより連続的に風量を調節することができます。
使用ポイントが下記に示す風量限界内に入るよう調節をしてください。
（ファンコントローラの操作要領は下面にあります。）



適用機種	90, 140, 224, 280
------	-------------------

工事完了後、これだけは再チェック願います。		
チェック項目	不良だと	チェック欄
室内外のユニットの取り付けはしっかりしていますか。	落下・振動・騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない・暖まらない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレンはスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は本体に表示の銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
電線の太さは仕様どおりですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない・暖まらない	

〈お願い事項〉

- 取扱説明書を見ながら、お客様に実際に操作していただき、正しい運転のしかた（特にエアフィルタの清掃、運転操作のしかた、温度調節の方法）をご説明ください。
- 長時間使用しない時は、電源スイッチを切るようにお客様にご説明ください。電源スイッチを入れたままにしておきますと、クランクケースヒータ等に通電されエアコンを使用しなくても電力を消費することになります。
- 本機はダクト機です。直吹きでは使用しないでください。

① 据付のまえに





○据付はこの据付説明書に従って正しく行なってください。
○工事計画にあつておりますか。

機種・電源仕様

確認してください

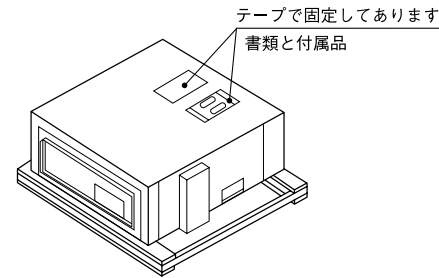
配管・配線・小物部品

付
属
品

① ドレン関係				
1	ホースクランプ		1 個	ドレン配管用
② フレアナット部断熱用（90,140のみ）				
1	パイプカバー（大）		1 個	ガス側用
2	パイプカバー（小）		1 個	液側用
3	バンド		4 個	

※お知らせ 224, 280には、1～3は付属しておりません。（ろう付接続のため）

付属品収納場所（梱包時）



FOCUS

② 室内ユニットの据付場所の選定 ★据付け高さは床面より2.5m以上としてください。

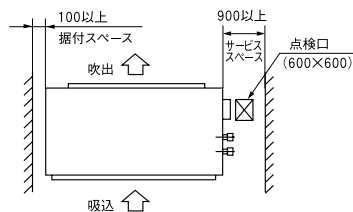
(室内機)

据付&サービススペース

(ここに示す据付&サービススペース、空気条件・風量は必ず守ってください。)

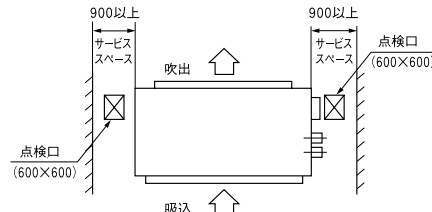
平面図 (単位: mm)

90, 140



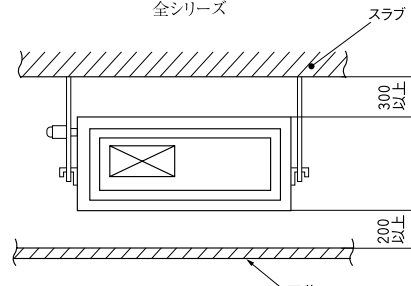
(側面サービス)

224, 280



正面図 (単位: mm)

全シリーズ



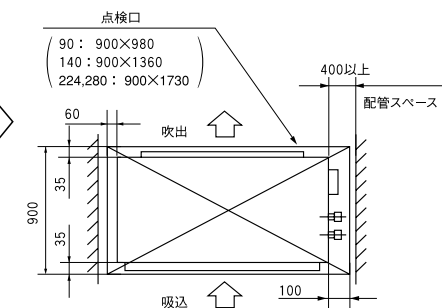
(側面、下面サービス共)

次に示すような方法が可能です。
左記に示す条件が満たされない時には

平面図 (単位: mm)

全シリーズ

正面図については左記と同様とします。



1. 据付場所は下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。

- 冷風または温風が十分行きわたる所。
据付高さが3mを超えると暖気が天井にこもりますので、サーキュレータの併設をお勧めください。
- 室外への配管、配線のしやすい所。
- ドレン排水が完全にできる所。ドレン勾配のとれる所。
- 吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤動作しない所。ショートサーキットしない所。
- 周囲の露点温度が28℃以下、相対湿度80%以下の所。

高湿度の所に据付ける場合は本体の断熱等露付に対する配慮をしてください。本ユニットはJIS露付条件にて試験を行い、不具合のないことを確認しておりますが、ユニット周囲が上記条件以上の高湿度雰囲気の状態で運転すると、水滴が落下する恐れがあります。そのような条件下で使用する可能性がある場合には、ユニット本体の全ての配管、ドレン配管にさらに10~20mmの断熱材を取り付けてください。

2. 据付けようとする場所がユニットの重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われましたら板、桁等で補強して据付作業を行ってください。

空気条件・風量

(50Hz/60Hz)

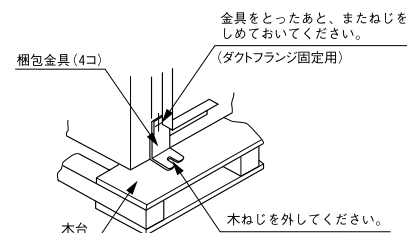
	定格風量 (m³/min)	吸込空気温度
90	8.5 / 8.5	冷房時 20℃DB~40℃DB
140	14 / 14.5	暖房時 0℃DB~24℃DB
224	22 / 21.5	くわしくは弊社発行の 技術資料を参照願います。
280	30 / 30	

③ ユニットの搬入、据付

搬入

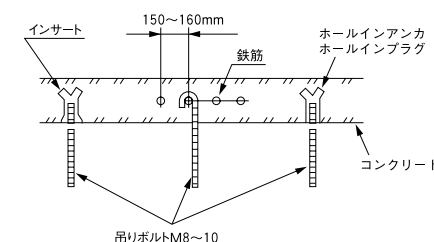
- 搬入時はできるだけ据付場所の近くまで梱包のまま搬入してください。
- やむをえず解梱して搬入する場合はナイロンスリングなどで包みユニットを傷つけないよう注意してください。

(梱包金具について) 梱包金具(4コ)は不要ですので捨ててください。

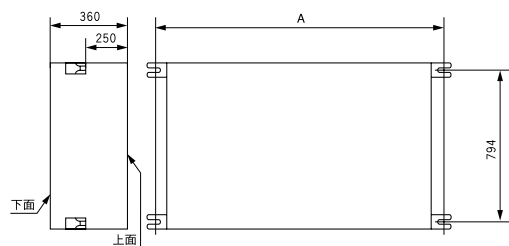


据付 <吊りボルト固定方法>

下図のいずれかの方法で吊りボルトを固定してください。



<吊りボルト位置>

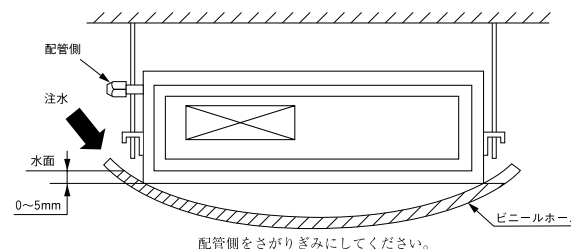


機種	項目	A
	90	890
	140	1270
	224, 280	1640

- 吊りボルト長さが長くなる場合は耐震補強を実施してください。
- システム天井（グリッド天井・ライン天井）の場合
吊り長さ（吊りボルトの長さ）500mm以上又は天井ふところ高さ700mm以上の場合に耐震プレースを設置する。
- 強度が十分にある天井面に設置され直接スラブから吊り下げる場合
吊り長さ（吊りボルトの長さ）1000mm以上の場合に耐震プレースを設置する。

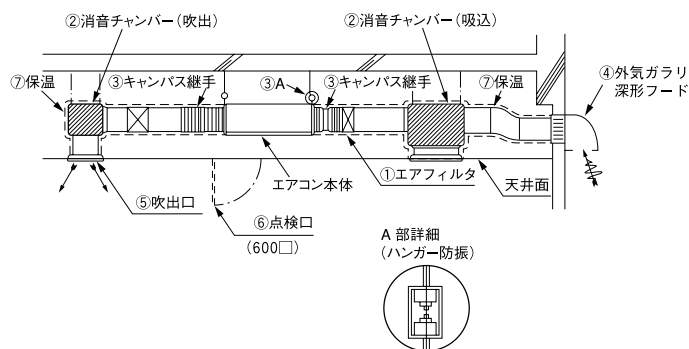
<水平度の確認>

水準器を使用するか、下記の要領で水平度の調整を行ってください。



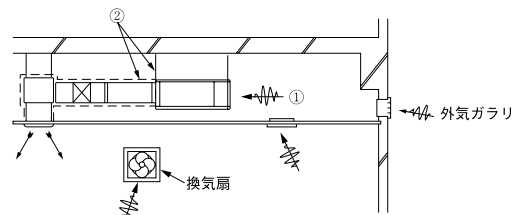
水平度がでないといふとフロートスイッチの誤作動、あるいは不動作の原因となります。

④ ダクト工事



- ①エアコン本体にはエアフィルタが付属されていません。
吸込側のユニットの近くに取り付け、掃除が容易に出来る構造としてください。
- ②消音チャンバーは据付ける室内の許容される騒音値によって取付けてください。
特に低騒音とする必要がある場合は、さらに消音装置が必要です。
(事務所、会議室などでは必ず取付けること)
- ③エアコン本体の振動が天井およびスラブに伝わらないようにダクトはキャンパス継手、エアコン本体は防振ゴムにより防振してください。
- ④外気ガラリには雨水が浸入しない処置をしてください。
- ⑤吹出口は室内全般に空気が流れるように位置、形状を選びさらに風量が調節出来る構造のものを使用してください。
冷房時の吹出温度は10℃前後まで下がる場合があります。断熱・結露対策をした機器を使用してください。
- ⑥天井面に点検口を必ず設けてください。電装品、モータ、機能品のサービス、熱交洗浄のために必要です。
- ⑦ダクトの保温施工は必ず実施し、ダクトへの結露を防止してください。
保温材の厚さは65mm (JISA9501)です。
特に外気吸込仕様の場合、暖房時の低外気空気により屋内ダクトが冷却されて、吸込側ダクトが結露する場合があります。また、冷房時の高湿度外気が屋内空気により冷却され結露する場合があります。吹出側ダクトと同様に吸込側ダクトの断熱を確実に行ってください。

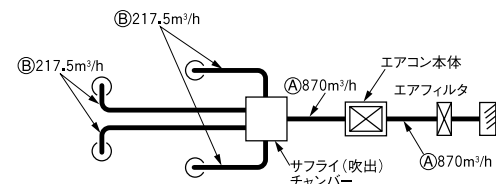
ダクト工事の悪い例



- ①吸込側ダクトを使用せず、天井内を吸込ダクトにすると換気扇の能力や外気ガラリに吹きつける風の強さ、天候（雨の日など）等により天井内が高湿度となります。
(イ) ユニットの外板に結露し天井に滴下するおそれがあります。
ユニットは「②室内ユニットの据付場所の選定」に書かれている表中の空気条件及び風量で使用してください。
コンクリート建築などで新築の場合も天井内ダクトにしろとも湿度が高くなる場合があります。この場合はユニット全体をグラスウール（25mm）で保温してください。（金あみなどでグラスウールをおさえてください。）
(ロ) ユニットの運転限界をこえる場合も考えられ、圧縮機のオーバーロードなどのトラブルの原因となります。
- (ハ) 換気扇の能力、外気ガラリに吹きつける風の強さによってユニットの送風量が多くなり使用制限をこえてしまうため熱交換器のドレンがドレンパンに流れず、外部に流れだすこともあり、（天井にドレンが滴下する）水漏れの原因となります。
- ②ユニットと、ダクト、ユニットとスラブの防振をしないとダクトに振動が伝わり、天井と吹出口の間で振動音が出たり、スラブにユニットの振動が伝わる場合があります。必ず防振してください。

＜簡易的なダクト寸法の決め方＞

ダクトの単位長さ当りの摩擦抵抗を1.0Pa/mとして、ダクトは一辺が250mmのものを
 使用する場合の方法を示す。
 140、60Hz定格風量の場合を例とします。



	風 量	ダクト (mm×mm)
①部	870m³/h (14.5m³/min)	250×250
②部	217.5m³/h (3.625m³/min)	250×100

○ダクト抵抗の計算 (簡便的に下表の如く計算する)

直 管 部	長さ1m当り1.0Paで計算する(1.0Pa/m)
曲 り 部	曲り部1ヶ当り直管に直して3~4mとする
吹 出 部	25Paで計算する
チ ャ ン バ ー	1 個で50Paで計算する
外気ガリ及びフィルタ	1 個で40Paで計算する

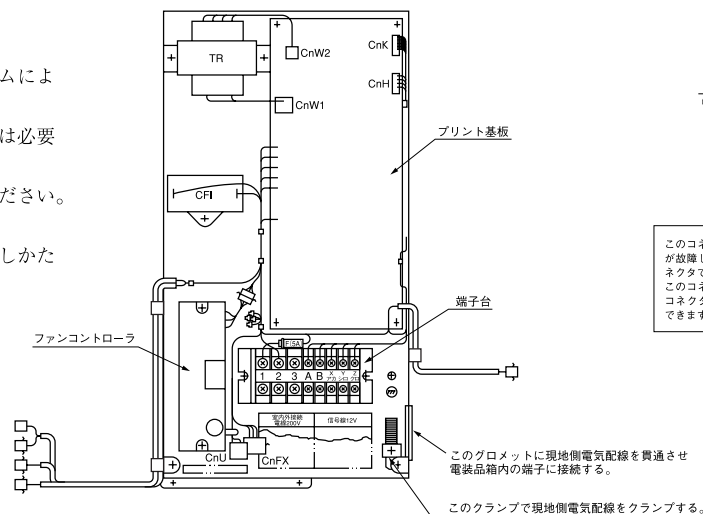
＜簡易ダクト寸法選定図＞

(1.0Pa/m)

ダクトの形 項目	風 量	角ダクト 寸 法
	m³/h (m³/min)	(mm×mm)
②部 →	100	250 × 60
	200	250 × 90
	217.5 (3.625)	250 × 100
	300	250 × 120
	400	250 × 140
	435	250 × 150
	500	250 × 170
	600 (10)	250 × 190
①部 →	800	250 × 230
	870 (14.5)	250 × 250
	1,000	250 × 270
	1,200 (20)	250 × 310
	1,400	250 × 350
	1,600	250 × 390
	1,800 (30)	250 × 430
	2,000	250 × 470

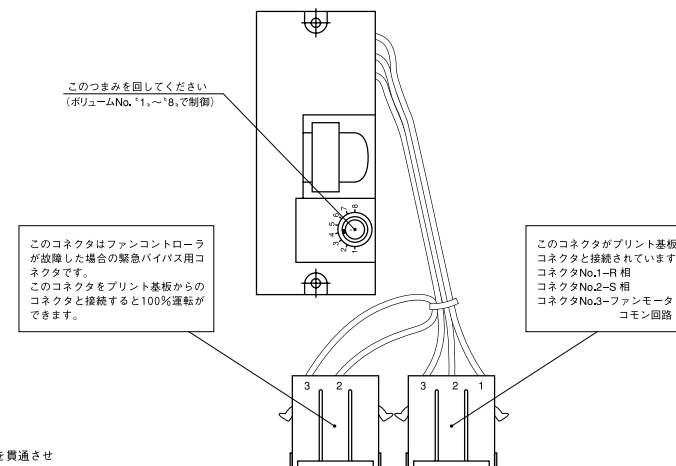
ファンコントローラ操作要領

本機は電装品箱に内蔵のファンコントローラのボリュームにより、連続的に風量を調整することができます。
 ダクト側でのダンパ等による風量調整 (機外静圧調整) は必要ありません。
 使用ポイントが定格風量範囲内となるように設定してください。
 (おもての風量限界を参考としてください。)
 右図にファンコントローラの電装品箱内の位置と操作のしかたを示します。



電装品箱での位置

(140の電装品箱を代表例としています。
 (ファンコントローラの位置は他の機種も同様です。))



ファンコントローラの操作のしかた

注) ファンコントローラを操作する際は、充電部に触れる
 恐れがあるので必ず電源を切ってください。

⑤ 冷媒配管

冷媒配管接続口径、接続方式

＜R407C機＞

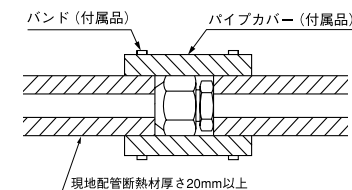
90	液配管	φ9.52	フレア接続
	ガス配管	φ15.88	フレア接続
140	液配管	φ9.52	フレア接続
	ガス配管	φ19.05	フレア接続

＜R410A機＞

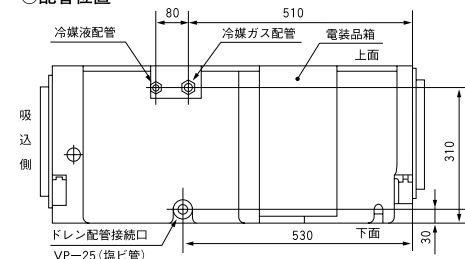
90, 140	液配管	φ9.52	フレア接続
	ガス配管	φ15.88	フレア接続
224	液配管	φ9.52	ろう付接続
	ガス配管	φ19.05	ろう付接続
280	液配管	φ9.52	ろう付接続
	ガス配管	φ22.22	ろう付接続

- 配管は下記材質のものをご使用ください。なお別売配管セットを使用されると便利です。
(材質) リン脱酸銅線目無銅管 (C1220T、JIS H3300)
 - 配管の曲げはできるだけ大きな半径で行ってください。曲げなおしを何回も行わないでください。
 - 配管は、ねじったり・つぶしたりしないでください。
 - 配管内はゴミ・切粉・水分が混入しないように施工してください。
 - 室内機配管はサービスパネルを取り外し可能とするため、配管方向がどの方向でも必ずユニットから400mm以上のストレート部分を設けてください。
 - フレア接続、ろう付接続は以下のように行ってください。
 - フレア接続
 - ・ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで2丁掛けして外してください。
(このときガスが出ることがありますが、異常ではありません。)
 - ・フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回しで3～4回転ねじ込み、2丁スパナ掛けでしっかりと締め付けてください。
 - ろう付接続
 - ・ろう付作業時は、ろう付部周囲を過熱しないように濡れタオル等で冷やしながら実施してください。
 - 室内機の配管接続部は、ガス漏れチェック後、断熱を行ってください。
- ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。**
- ※液側配管は断熱しないと結露し水漏れします。
- ・フレア接続部は、付属の継手用断熱材をかぶせ、両端を付属のバンドでしっかりと締め付けてください。
 - ・ろう付接続部は、現地に断熱材を手配し、断熱してください。
- 冷媒は、室外ユニットに充填されています。(室内及び接続配管分の追加量については室外の説明書をご覧ください。)

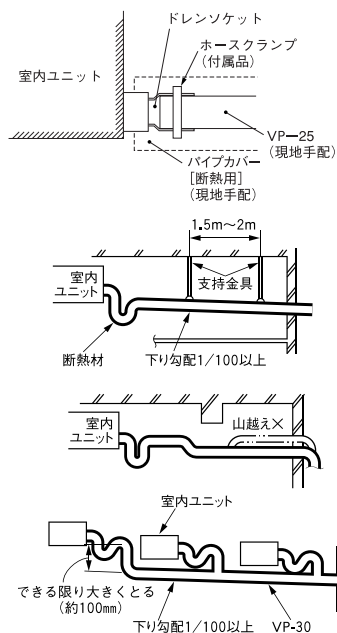
○フレア接続部の断熱



○配管位置



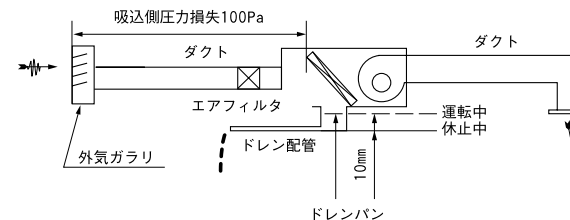
⑥ ドレン配管



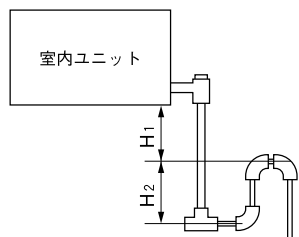
- ドレン配管は市販の硬質塩ビパイプ一般管VP-25を使用してください。
- ドレン配管をユニットのドレンソケットの段差部まで装着し、付属のホースクランプで確実に締めてください。
- ドレン配管を接続する場合にユニット側の配管に力を加えないように注意して行いできる限りユニット近傍で配管を固定してください。
- ドレン配管は下り勾配 (1/50～1/100) とし、途中山越えを作らないようにしてください。
- 複数台のドレン配管の場合、下図のように本体ドレン出口より100mm以上上下に集合配管がくるようにしてください。また集合管はVP-30以上を使用してください。
- 室内にある硬質塩ビパイプは必ず保温してください。
- ドレン配管の出口は臭気の発生する恐れのない場所に施工してください。
- ドレン配管はイオウ系ガス等有害ガス及び可燃性ガスの発生する排水溝に直接入れないでください。

室内に有害ガス及び可燃性ガスが侵入する恐れがあります。

ダクトを接続し、送風機を運転するとユニット内部は大気圧に対して負圧となります。



例：上図のように外気ガラリ、エアフィルタ、ダクトの吸込側の圧力損失が100Paあるとすれば運転中のドレン水位は停止中に比べ10mm上昇します。



H1=100mm又は送風機の静圧
H2=1/2H1又は50~100mm

<トラップの施工>

ドレン排水出口が負圧となる位置にありますのでドレンパンの水位上昇による水漏れを防ぐため設計上トラップを（配管工事のとき）1ヶ所設けてください。

トラップは掃除が可能な構造とすることが必要です。左図に示すようにT形継手を使用してください。またトラップの高さも図のような寸法としてください。

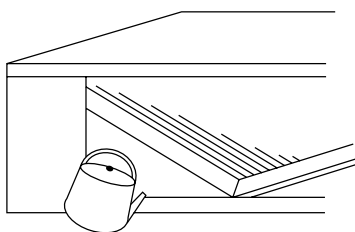
トラップはユニットの近くに設けてください。

- ドレン配管の途中に1箇所、左図のようなトラップを設けてください。

⑦ 排水テスト

ドレン配管工事が完了したら、水を流して確認してください。

- サイドパネルをはずし、ドレンパンに約1000ccの水を徐々に入れ、スムーズに排水することを確認してください。又、水漏れのないことをご確認ください。



FDUP 902FLXB～2802FLXB

PSB012D810D 

電気配線工事説明書

電気配線工事は電気設備技術基準及び内線規程に従い、電力会社の認定工事店で行ってください。

① 電気配線取り出し穴位置および電気配線接続

電源配線

警告

- 下記のことを必ず守ってください。守らないときは、感電による火災、感電又は過熱、ショートによる火災の恐れがあります。
- 電源配線の仕様・サイズの選定は、「電気設備に関する技術基準を定める通商産業省令」、「内線規程」に従ってください。また、接続部の緩みがないようにしてください。
- 機器毎に設定された過電流及び漏電遮断器（感度電流30mA）を設置すること。
- 専用の分岐回路を用い、他の機器と併用しないこと。併用した場合、ブレーカー落ちによる2次災害が生じる恐れがあります。

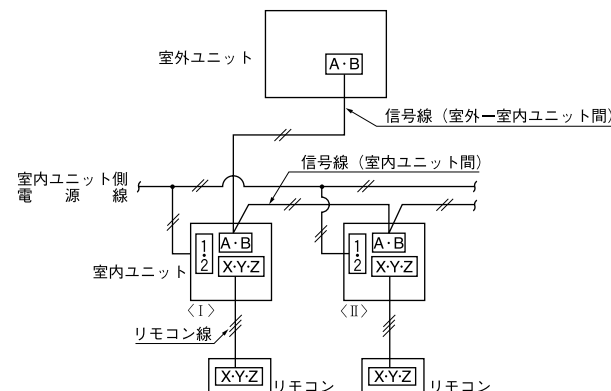
注意

- 8mm²を超える太さの配線は接続不可能です。8mm²以上をご使用の場合は、専用のプルボックスを使用し、室内ユニットへ分岐するようにしてください。
- 信号線用端子台に200Vを接続しないでください。
- 電源は工事が完了するまで入れないでください。

○電気工事は電力会社の認定工事店で行ってください。本配線仕様は、下記に基づいて決定しています。

- 1) 電線は銅線以外のものを使用しないでください。
- 2) 電源は、室外ユニット・室内ユニットの夫々別電源。
- 3) 電気ヒータ（別売品）は含んでおりません。
注）電気ヒータを組込む場合は、電源仕様・配線仕様および配線本数が異なりますので、ご注意ください。
- 4) 同一系統内の室内ユニット電源は、必ず全て同時ON、同時OFFになる様にしてください。
- 5) 信号線と電源線の接続を間違えますと全ての基板が焼損してしまいますので、ご注意ください。

配線系統図（室外・室内ユニット接続要領）



電源仕様

(50/60Hz)

室内ユニット 合計電流 (A)	配線用遮断器 定格電流 (A)	漏電遮断器		
		定格電流 (A)	感度電流 (mA)	動作時間 (sec)
7以下	20	20	30	0.1以下
11以下				
12以下	30	30		
16以下				
19以下	40	40		
22以下				
28以下	50	50	100	

配線仕様

室内ユニット 合計電流 (A)	電源用 配線太さ (mm ²)	配 こ う 長 (m)	信号線太さ	
			室外-室内 (mm ²)	室内-室内 (mm ²)
7以下	2	21	0.75~2.0 × 2 本	0.75~2.0 × 2 本
11以下	3.5			
12以下	5.5	33		
16以下		24		
19以下		20		
22以下	8	27		
28以下		21		

- 注(1) 配線こう長は、合計電流値の最大値で記載してあります。
 (2) 室内ユニット接続線は5.5mm²まで使用可能です。8.0mm²以上の配線をご使用なされる場合は、専用のプルボックスを使用し、室内ユニットへ分岐してください。
 (3) 配線こう長は、電圧降下を2%とした場合を示します。上表の配線こう長を超える場合は、内線規程に従い、配線太さを見直してください。

冷暖フリーマルチの場合

分流コントローラの配線

- 本ユニットを冷暖フリーマルチとして使用する場合は分流コントローラ(別売品)の据付説明書をご覧ください。

② アドレス設定

- (1) 自動アドレス設定 (2) 手動アドレス設定 (3) リモコンアドレス設定

上記3項目については、室外ユニット付属の説明書をご覧ください。
 なお、(3) リモコンアドレス設定については、設定可能な機種と不可能な機種がありますので、室外ユニット付属の説明書をご覧ください。

③ リモコン取付と配線及び機能

リモコン リモコンは別売です。

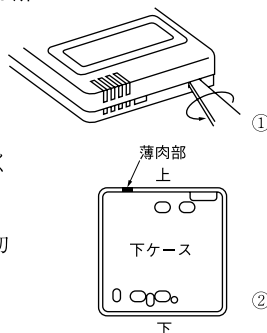
リモコンの据付 お願い 次の位置は避けてください。

- 1) 直射日光の当たる場所
- 2) 発熱器具の近く
- 3) 湿気の多い所・水の掛る所
- 4) 取付面に凸凹がある所

取付要領

露出取付

- ① リモコンケースをはずしてください。
 ● リモコン上部の凹部にマイナスドライバ等を差し込んで軽くねじり、ケースをはずします。
- ② リモコンコードの取出し方向は、上方向のみ可能です。
 ● リモコン下ケース側の上方薄肉部をニッパー・ナイフ等で切り取った後、ヤスリ等でバリを取ってください。
- ③ リモコン下ケースを付属の木ねじ2本で壁に取り付けます。



- ④ リモコンコードを端子台に接続してください。室内機とリモコンの端子番号を合わせて接続してください。端子には極性があるので間違えると運転できません。

端子：⑧ 赤線、⑦ 白線、② 黒線

リモコンコードは、0.3mm²(推奨)～最大0.5mm²以下としてください。また、リモコンケース内を通る部分はシース部を皮むきしてください。

各配線の皮むき長さは下記の通りです。

黒：195mm
 白：205mm
 赤：215mm

- ⑤ 上ケースを元通りに取り付けてください。
- ⑥ リモコンコードをコードクランプを使用して壁等に固定します。
- ⑦ 室内機の機能や用途に合わせて、機能設定をしてください。

機能の設定の項をご覧ください。

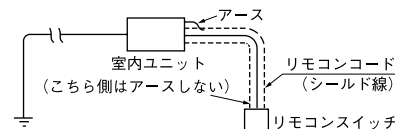
リモコンコードを延長する場合の注意 ▶ 最大総延長600m

コードは必ずシールド線を使用してください。

- 全形式：0.3mm²×3心〔MVVS3C(京阪電線)〕

注(1) 延長距離が100mを超える場合は、下記のサイズに変更してください。但し、リモコンケース内を通る配線は最大0.5mm²以下とし、リモコン外部の近傍で配線接続により、サイズ変更してください。

- 100～200m以内……0.5mm²×3心
 300m以内……0.75mm²×3心
 400m以内……1.25mm²×3心
 600m以内……2.0mm²×3心



- シールド線は必ず片側のみをアースしてください。

埋込取付

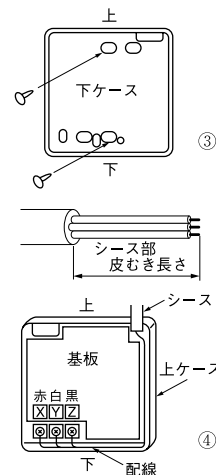
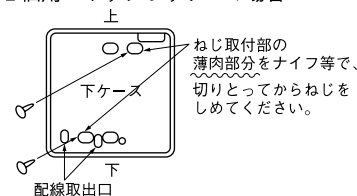
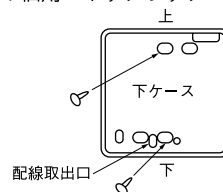
- ① JISボックスとリモコンコード(延長の場合はシールド線を必ず使用)をあらかじめ埋込んでおきます。

〔使用可能JISボックス〕

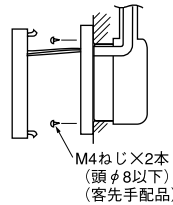
- JIS C 8336 1個用スイッチボックス
 2個用スイッチボックス

1個用スイッチボックスの場合

2個用スイッチボックスの場合

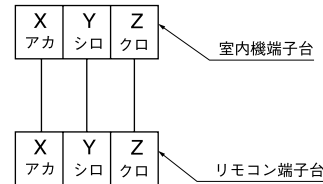


- ②リモコンの上ケースを外してください。
- ③下ケースをM4ねじ2本(頭φ8以下)を用意してJISボックスに取付けてください。
- ④リモコンコードをリモコンに接続します。
露出取付の項をご覧ください。
- ⑤上ケースを元通り下ケースにはめ込み取付完了です。
- ⑥室内機の機能や用途に合わせて、機能設定をしてください。
機能の設定の項をご覧ください。



リモコンと室内の配線

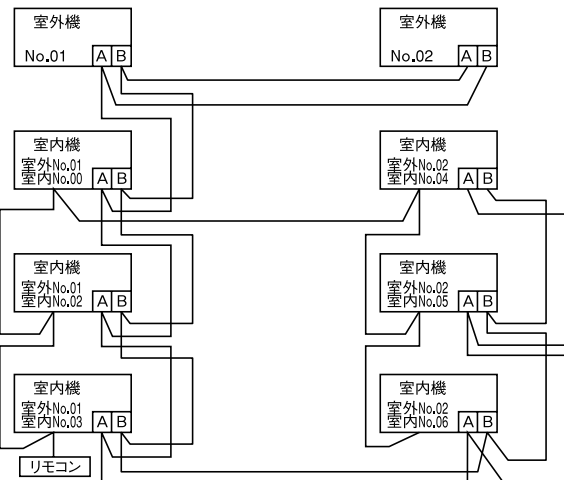
- リモコン配線は極性があります。
必ず同一端子台No.同士接続してください。



リモコン複数台制御

配線要領

- グループ制御用に各室内機間に渡り配線をします。(3本)
- 室内ユニットリモコン用端子台XYZに、接続してください。なお極性がありますので、同じ端子No.の所へ接続してください。
- 配線は0.5mm²以上を使用してください。(配線の引廻しに耐えるもの)
- 渡り線、リモートコントローラ配線の総延長は600m以内としてください。
- 室内・室外No.を手動アドレス設定にてセットしてください。
- 室外機の室外No.設定も必要です。忘れずに設定してください。
- 下図の様に室外機が複数台の場合でもリモコン複数台制御可能です。
- 1つのリモートコントローラで複数台のユニット(最大16台)をグループ制御できます。
- 室内基板上のロータリースイッチSW1、SW2により、リモコン通信アドレスを重複しないように設定してください。



電源投入後、リモコンの[エアコンNo]を押すと室内機アドレスが表示されますので、
▲ ▼ ボタンで接続されている室内機アドレスがリモコンに表示されることを、
必ず確認してください。

機能の設定

- リモコン及び室内機の各機能は、接続される室内機により自動設定されます。
(標準的な使い方をする場合は設定の変更はいりません。)
- 但し、グリル昇降設定と、特別に初期設定を変更する必要がある場合は、設定を変更してください。
設定方法は、リモコンの据付説明書をご覧ください。

工場出荷時、リモコンはグリル昇降無効の設定となっていますので、ラクリーナパネル
ご使用の場合は、必ずグリル昇降有効の設定が必要です。
設定方法は、リモコンの据付説明書をご覧ください。

各機能の初期設定は下記の通りです。

(1) リモコン機能

機能番号 (A)	機能内容 (B)	設定内容 (C)	初期 設定
01	グリル昇降設定	昇降無効 有効50Hz地区 有効60Hz地区	○
02	自動運転設定	自動運転有効 自動運転無効	 ○
03	温度設定	温度設定有効 温度設定禁止	○
04	運転切換	運転切換有効 運転切換禁止	○
05	運転/停止	運転/停止有効 運転/停止禁止	○
06	風量調整	風量調整有効 風量調整禁止	※
07	風向調整	風向調整有効 風向調整禁止	※
08	タイマー	タイマー有効 タイマー禁止	○
09	リモコンセンサ設定	リモコンセンサ無効 リモコンセンサ有効	○
10	停電補償設定	停電補償無効 停電補償有効	○
11	換気設定	換気接続なし 換気連動 換気非連動	○
12	温度範囲設定	表示変更有 表示変更無	○
13	室内ファン速調	ファン3速 ファン2速 ファン1速	※
14	冷専/ヒーボン	ヒーボン 冷専	※
15	外部入力設定	個別運転 全台同一運転	○
16	エラー表示設定	エラー表示有 エラー表示無し	○
17	ルーバ制御設定	ルーバ4位置停止 ルーバフリー停止	○

(2) 室内機能

機能番号 (A)	機能内容 (B)	設定内容 (C)	初期 設定
01	高天井設定	標準 高天井1 表示しない	○
03	フィルターサイン設定	180時間後 600時間後 1000時間後 1000時間→停止	 ○
04	ルーバ制御設定	ルーバ4位置停止 ルーバフリー停止	○
05	外部入力切換	レベル入力 パルス入力	○
06	運転許可/禁止	通常運転 有効	○
07	暖房室温補正	通常運転 室温補正+3℃	○
08	暖房ファン制御	弱風 停止→弱風	○
09	凍結防止温度	2.5℃ 1℃	○
10	凍結防止制御	ファン制御有効 ファン制御無効	○
11	電気集塵機	ファン制御無効 ファン制御有効	○
12	加湿器制御	ドレンモータ非連動 ドレンモータ連動	○

注1.「※」印の項目の初期設定は、室内機の機種毎に異なり、下記の通りとなります。

給気処理ユニット 13-10/10

機能番号 (A)	機能内容 (B)	設定内容 (C)	初期設定
06	風量調整	風量調整有効	室内ファン風量 2、3 速の機種
		風量調整禁止	室内ファン風量 1 速の機種
		風向調整有効	オートスイングルーバ搭載機種
07	風向調整	風向調整有効	その他
		風向調整禁止	
13	室内ファン速調	ファン 3 速	室内機ファン風量 3 速の機種
		ファン 2 速	室内機ファン風量 2 速の機種
		ファン 1 速	室内機ファン風量 1 速の機種
14	冷専／ヒーボン	ヒーボン	ヒーボン機
		冷専	冷専機

注 2. 室内機に機能がない内容の場合、設定しても室内機は作動しません。

注 3. (1)のリモコン機能の⑦ルーバ制御設定を変更する場合は、(2)室内機能の④ルーバ制御設定も変更してください。

④ 制御の切換

囲みが工場出荷時の設定

室内機の制御内容を下記方法にて切換可能です。

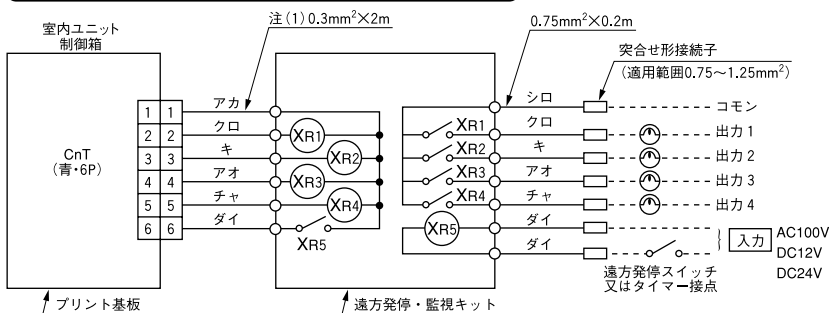
SW5-1	ON	ドレンポンプ試運転	
	OFF	ドレンポンプ自動	
SW5-2	ON	加湿器残留運転 有効	
	OFF	加湿器残留運転 無効	
SW5-3	ON	外部入力 パルス入力	
	OFF	外部入力 レベル入力	
SW5-4	ON	緊急停止信号 有効	
	OFF	緊急停止信号 無効	
SW6-1	機種容量設定		
SW6-2			
SW6-3			
SW6-4			
SW9-1	ラクリーナパネル降下長設定		
SW9-2			
SW9-4	ON	ファン制御	高速（高天井）
	OFF	ファン制御	標準

J1	短絡	フィルタサイン有効		
	開放	フィルタサイン無効		
J2	短絡	運転制御標準		
	開放	運転許可禁止		
J3	短絡	暖房サーモOFF制御はJ4による		
	開放	暖房サーモOFF時停止		
J4	短絡	暖房サーモOFF時Lo風量運転		
	開放	暖房サーモOFF時間欠運転		
J8	短絡	加湿器ドレンポンプ非連動		
	開放	加湿器ドレンポンプ連動		
J10	リモコン風量表示の切換 ×：開放 ○：短絡			
J11	記号	設定 1	設定 2	設定 3
	J10	○	×	○
	J11	○	○	×
	風量切換設定	3 速 (急/強/弱)	2 速 (急/弱)	1 速 (風量調整無効)

※ 風量切換設定の工場出荷時設定は、室内機により異なります。

注) 機種によっては、上記制御内容の一部が無い機種もございます。詳細は機種別の結線銘板をご覧ください。

⑤ 室内基板CnTコネクタの機能



注 (1) 2 m より長くしないでください。

- XR1~4はDC12Vリレー (オムロンLY2F相当品)
- XR5は、DC12, 24V又はAC100Vリレー (オムロン製MY2F相当品)
- CnTコネクター (現地側) メーカー、形式

コネクター	モレックス	5264-06
端 子	モレックス	5263T

●機 能

出力 1	エアコン運転出力 (エアコンON時XR1=ON)	
出力 2	暖房出力	
出力 3	サーモON出力 (サーモON時XR3=ON)	
出力 4	エアコン点検出力 (エアコン点検時XR4=ON)	
入力 5	出 荷 時	XR5 OFF⇒ON エアコンON
		XR5 ON⇒OFF エアコンOFF
	現 地 切 換 (SW5のNo.3をON)	XR5 OFF⇒ONのパルス信号によりON/OFF反転

- 冷暖フリーマルチとして使用する場合は分流コントローラ (別売品) の据付説明書をご覧ください。
- 遠方発停・監視キットを別売品で準備しておりますのでご利用ください。

⑥ ドレンポンプ運転操作

ドレンポンプ運転がリモコン操作により可能です。リモコンを次の手順で操作してください。

1. ドレンポンプ強制運転の開始

①[試運転] ボタンを 3 秒以上押します。

「項目◆で選択」→「[セット]で決定」→「冷房試運転▼」と、表示が切り換わります。

②「冷房試運転▼」の表示の時に、[▼] ボタンを一度押し、「ドレンポンプ運転◆」を表示させます。

③[セット] ボタンを押すと、ドレンポンプ運転を開始します。

表示：「ドレンポンプ運転」→「[セット]で停止」

2. ドレンポンプ運転の解除

④[セット] ボタン又は、[運転/停止] ボタンを押すと、ドレンポンプ強制運転を停止します。エアコンは停止状態となります。

⑦ 試 運 転

試運転については、室外ユニット付属の説明書をご覧ください。

⑧ 故障診断方法

故障診断方法については、室外ユニット付属の説明書をご覧ください。

⑨ 工事完了後のチェック項目

- 電源電圧は本体表示と同じですか。
- 室外機側でアース工事はされていますか。
- 電源線の太さは指定の配線と同じですか。
- 電源線、信号線、リモコン線の接続位置は正しいですか。